

病床機能懇話会意見交換結果シート

資料2-3

圏域名：北河内

【テーマ1】病床機能報告の精度を高めるために

現状	課題	改善提案等今後の方向性
<p>・病棟毎に報告しているため、すべて急性期で届け出て いるが、実際は急性期病棟であっても回復期や慢性期 の患者が混在しているため、報告上、回復期、慢性期が 足りていない状況になっているのではないか。</p>	<p>・在宅にいる高齢者であっても、実態はすぐ入院とな る。在宅の方の機能を高めていくために、どうすればよ いか検討が必要。 ・今の病床機能の把握は形だけであり、実際にどのよう に病床が動いているか把握できていないことが問題。</p>	<p>改善提案等今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告マニュアルに記載されている機能にあてはまる患 者がどれだけのいるのか知りたい。2025年を見据えて、確 実に必要な病床機能がどれくらいなのか把握してい かねばならない。今後急増する高齢者の急性期や、急性 期を脱した高齢者が住む場所(入院も含む)を考えてい かなければならない。 ・病棟毎に画一的に報告してきたが、病棟単位で報告す れば、より細分化されるのではないか。 ・病床単位での報告すると、事務方にも頑張っても らう必要がある。2025年まで、まだ時間があるため次の 基準病床数が見えてからでもよいかと考える。 ・退院した高齢者が在宅で生活するには、経済的に困難 な場合が多い。経済的な視点も含めて、在宅医療から 病床機能を考えていかねばならない。 ・病棟毎に提出している病床機能報告により、過不足が ある病床について地域で考えていく点において、現実と の乖離が生じている。圏域として実際の病床はどうなっ ているのか、実態把握をしていくべきかもしれない。